

# 賀正

知恵と愛のある  
協働互敬のまち  
おおたわら  
平成31年新春のごあいさつ

あけましておめでとうございませう。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年のデステイネーションキャンペーンでは、黒羽雲巖寺に吉永小百合さんが訪れ、キャンペーンCMが全国に放映されたことから、大きな話題となりました。まさに、にぎわいと活気を感ずる年でありました。



しかしながら、全国的に自然災害が多発し、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震等の災害により、尊い生命財産が奪われました。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。本市もそれらの災害を他人事とせず、防災に向けた準備を怠らないよう、昨年、北海道大樹町、岩手県久慈市との災害相互応援協定を締結いたしました。

災害列島化した日本では、いつ我が身に襲ってくるかわからない災害に対し、常日頃の心掛けの大切さを感じております。

平成最終年がスタートし、東日本大震災からの復興のシンボルであります、新庁舎が完成いたしました。また、今年度は工業団地に誘致した企業の工場もほぼ完成し、年内の操業開始を予定

しております。さて、全国的にも、高齢化・少子化による人口減少が問題となっております。しかし、悲観的に考えていても解決するための答えは出ません。前向きに考えてみようではありませんか。市民が主役となり、日々元気に夢(目標)を持って、明るく生きるため、また、老いも若きもすべての市民の皆様が笑顔で暮らせるよう、行政を預かる者として、必要な施策を選択し、優先順位をつけ積極的に実施してまいります。

例として、「地域包括支援強化による在宅介護支援の充実」「デマンドバスを湯津上、佐久山、野崎地区まで広げ、住み良い環境を構築」「小中学校へのエアコン

設置、子育て環境のさらなる充実」「土地改良事業に併せ、住宅・工業団地造成を促進し雇用人口増を図る」など、大田原市が真に県北の中核都市として、役割を發揮するための飛躍の年になるよう頑張つてまいります。

知恵と愛のある協働互敬のまちづくりを通して、今年も市民の皆様にとつて、幸多い年でありませうとご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

大田原市長

津久井 富雄

